

ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者  
小教区評議会役員、広報部担当者各位

## 2019年小教区評議会役員交流会報告

2019年11月  
福音宣教企画室

- テーマ : 社会への福音宣教—福音宣教のツールとしてのSNSを考える—
- 対象 : ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員、小教区広報部担当者
- レポート : 岩佐 康二氏 (心のともしび運動YBU本部SNS担当)  
中原 春生氏 (長岡教会広報担当)
- 日時 : 2019年9月7日 (土) 10:30~15:30
- 場所 : カトリック京都司教区河原町教会・ヴィリオンホール
- 参加人数 : 78名 (信徒74名、司祭3名、修道者1名)
- 内容 : レポート①岩佐 康二氏 レポート②中原 春生氏 グループワーク 発表 質疑応答

### 大塚司教挨拶

5月の研修で取り上げたテーマを、福音宣教、特に生活の中で体験するいい話、「good news」を教会共同体としてHPやFacebookを使ってどのように伝えていくかを学ぶ。今日の研修を通して、単なるお知らせや報告だけではなく、読んだ人が心温まるもの、イエスの話のようにその場で人を動かすものを発信することを、リスクを恐れすぎることなく、使いながら身につけられるようになればと思う。

### 一場師 本日のねらい

5月の研修会では情報を伝える手段であるSNSを使って福音を伝えることを学んだ。

SNSは今や一つの「社会」であり、その福音化は私たちの使命であるが、実際は人を傷つけ、争いを引き起こす反福音的な情報があふれ、社会問題にもなっている。しかし教会はSNSで福音を伝えなければならない。そのために午前中はSNSをどう使うのか、YBUの取り組みの具体例を通して学ぶ。

午後は実際に何を伝えるのか、持ち寄った「グッドニュース」を使い、中身、伝え方、ことば使い、受け手のとらえ方などを考えながらグループで分かち合い、識別してSNSに載せる形になればよいと思う。その後、小教区の取り組み例を紹介する。

SNSは強力で有効な手段であり、強力だからこそ暴力にもなる。かつて自動車や飛行機など、便利なものができたとき、色々なマイナス面が現れた。そのことも考えながら、初代教会が福音書を生み出したように、社会の人々にとって救いのことば、イエス・キリストとの出会いのきっかけになるのだという気持ちで取り組み、その中で出てくる問題点、困難も大切に分かち合ってもらいたい。

## レポート① 「SNS 概要」 岩佐康二氏 要旨⇒資料参照

HP やブログと SNS の違い、SNS の種類と特徴、SNS の作成のポイントや Facebook ページの開設方法などを、具体例や自身の経験を挙げて丁寧に説明された。

## レポート② 「教会の SNS の実施例 長岡教会」 中原春生氏 要旨

長岡教会の広報活動の歴史を紹介。共同宣教司牧をきっかけに 2002 年 HP を開設。

お知らせ文書のデータ化、電話連絡網からメール連絡網への移行。

教会内のインターネットや Wi-Fi 環境、HP、Facebook ページ運営の作業手順、使用しているアプリケーションやソフトについて。HP、Facebook ページを開設、更新する際や、写真、個人名の扱いについての注意点、などについて具体例を提示しながら分かりやすく説明された。

## 分かち合い・グループワーク

今回はテーマの特性からできるだけ同じブロック同士で、広報部の情報交換の場としても役立つことを念頭に置き、またインターネット環境のある教会とない教会が交流できることもねらいとした。

ワークとしてはあらかじめ持ち寄った信仰体験である各自の good news を、教会として SNS を使って社会に発信するためにどのような作業が必要か、チームで取り組み体験して、プロセスを味わいながらリスクについても考える場とした。

発表、アンケートからは、効果的な発信について、リスクについて、また一方でリスクを恐れすぎると内容が平凡になってしまうこと、などチームワークを通して出てきた問題や注意点への気づきや、教会として公に good news を発信するまでの分かち合いの深まりを体験できた、などの声が聴かれた。

## 質疑応答

- ・中原氏へ メール連絡網はメーリングリストか、一斉送信か？  
⇒一斉送信。アドレスは教えたくない人もあるのでアンケートを取って希望者だけに送信している。
- ・岩佐氏へ 使い方によって包丁にもなる。個人情報漏洩の恐れについて、例えば写真や記事からうかがい知ることのできる情報も悪用されかねない。包丁は幼い時から使い方を教えるが、手軽に使える SNS は危険性が高いのではないか。  
⇒載せる内容については個人で運営すると危険性は高くなると思う。3 名くらいのチームで検討した内容を載せるのがまず一番大切であると思う。  
チームでもメンバーに知識がないと危険なのでは？  
⇒私が回答するのは難しいが、配付する「HP、SNS を作成する時の注意点」を参考にしてほしい(資料説明)
- ・お二人へ 更新する頻度と場所  
⇒中原氏 HP のみ更新していた時は小まめに更新していたが時間と手間がかっていた。Facebook ページは現在一人で更新しているのでカメラで撮って短時間で文章をつけてアップできる。HP は月に一度程度、来月のミサ予定表を更新する時に Facebook ページの記事を転記している。  
⇒岩佐氏 HP は業者に委託している。Facebook ページ、Twitter は 10 回分を自動投稿するソフトに入れて投稿している。

## 一場師 ふりかえり

分かち合いが積極的にされ、発表では同じことが出てこなかったのはよいことだと思う。SNS を使っていくのは難しく、リスクもある。個人情報が増えていくことについても感覚は個人によって様々であり、そのことも大切にしないといけない。

チーム作業の中でお互いに福音宣教の姿勢が分かってくるので、それぞれの福音宣教観を知る上でも効果がある。そういう意味でも個人ではなくチームで取り組まなくてはいけないと思う。

チームで取り組むのは大変であるが、教会の中には色々な能力を持つ人が集まっている。個々が得意な分野を担当することにより、お互いが与えられた賜物を活かす場となり、それが福音宣教につながっていく場ともなる。共同体として取り組めるところはグループで楽しく取り組んでほしい。

皆が「よい知らせ」を伝えようとしているという共通認識が大切である。

## 大塚司教 コメント

短い時間だったが中身が濃く、皆さんにも多くの示唆があったかと思う。

来年は3年サイクルの一番目、「教会と福音宣教の理解」となる。興味深い企画を考える予定である。

## 福音宣教企画室のふりかえり

春の研修会で、SNS はわからない、苦手、だが必要性を感じる、頑張ってみよう、しかし「炎上」などのリスクが心配である、という声がありました。企画室でも必要性は感じながらも果たして教会として公に SNS をどのように運営していけばよいのか、発信する内容の識別をどうするのか、リスク管理について、などを皆さんにどのようにご紹介できるのか手さぐりの状態でした。日本カトリック司教協議会発行の「SNS と宗教」を読むこと、実際に担当している方に話を聴くことから始めました。

交流会では実際に小教区やブロックでの SNS の運営について考える機会になればと、SNS の特徴や使い方、リスク、運営について、実際に関わっている方の発表を聴き、持ち寄った good news を実際に公に発信する形にする作業のプロセスを体験していただく機会を考えました。

岩佐氏、中原氏のレポートは具体的で分かりやすかった、という声を多くいただきました。また、分かち合い・グループワークでは、なごやかで楽しい雰囲気の分かち合いの中で、参加者それぞれに多くの気づきがあり、SNS についての情報交換と交流のよい時間になったようでした。

今回の交流会での学びと交流を通して、小教区やブロックでの SNS の運営について考え、取り組みを始めていただくきっかけ作りになったのではないかと思います。

研修会の前に各小教区にお配りした「若者と宗教」「SNS と宗教」もご活用いただけたらと思います。